



4.汚染された土について

どんな対策をしてきたの？

土壌汚染が最初に大きな社会問題となったのは農用地の汚染でした。そのため、人の健康を損なうおそれがある農畜産物の生産や農作物などの生育阻害の防止を目的として制定された「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」によって従来から対策が実施されています。

一方で、市街地の土壌汚染は、汚染原因や汚染経路、その影響のメカニズムがあまり明らかになっていませんでした。

それが近年になって、工場跡地の再開発や売却の際、あるいは環境管理の一環として自主的に汚染状況の調査を行うという事業者が増え、地方自治体でも地下水の調査を充実するようになって、土壌汚染の実態が明らかになってきています。

これまでに、環境省が土壌環境基準を設定したり、調査・対策指針を策定し、また、地方自治体でも独自の条例をつくるなど、市民の安全と安心を確保するために、土壌汚染による人の健康への影響を防ぐ対策が強化されてきました。